

目次

- ◆  
2024 年度運営委員長からのご挨拶  
〔委員長〕 伊藤 京子 (京都橘大)
- ◆  
FIT2024(第22 回情報科学フォーラム) 開催のご案内  
〔企画幹事〕 堤 公孝 (長崎大学)
- ◆  
HCG シンポジウム2024 への投稿のご案内  
〔企画幹事〕 赤坂 文弥 (産総研)
- ◆  
研究会活動紹介 (HCS)  
〔委員長〕 林勇吾 (立命館大学)
- ◆  
研究会活動紹介 (VNV)  
〔委員長〕 菊地浩平 (筑波技術大学)

---

2024 年度運営委員長からのご挨拶  
〔委員長〕 伊藤 京子 (京都橘大)

---

2024年度電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) 運営委員長を務めます、京都橘大学工学部情報工学科の伊藤京子です。学生時代の卒業研究で京都大学のヒューマンインタフェースの研究室に入り、学位取得後に助手として着任した大阪大学のヒューマンインタフェースの研究室で、ヒューマンコミュニケーション基礎 (HCS) 研究会の幹事補佐として声をかけて頂きました。その後、同大学のコミュニケーションデザイン・センターという新しい組織に所属するとともに、主にHCS研究会に参加してきました。人と人とのコミュニケーションを支援する機能のコンピュータを用いた方法を考えると同時に、人と人とのコミュニケーションとは一体何なのか、何をどのようにすることが求められるのかを考える機会を頂きました。

2023年は、未来から見るとコミュニケーションにおいて1つの転機となる年だったかもしれません。みなさまもご存じの通り、ChatGPTをはじめとする生成AIによるチャットツールの登場とその普及です。以前からスマートスピーカ等の会話型インタフェースが存在しましたが、生成AIはこれまでの技術とは大きく異なり、より自然な会話を実現することを可能としています。これらのLLMによる生成AIは、現在、主にチャットの形式で利用されていますが、その利用用途は日々

拡大しています。近い将来、さらに多くの私たちの生活シーンに深く浸透してくるかもしれません。

私たちは既に、人と人とのコミュニケーションにおいてチャットツールやメールが身近に利用される世界に生きています。そこに生成AIが登場したことで、相手となる人間が実際に自分で書いているのか、それともAIが生成したメッセージなのか、判断することが難しくなりました。生成AIがヒューマンコミュニケーションをより豊かなものにするのか、それともよくない方向に進めるのか、それは私たちがそれをどのように活用するのかにかかっています。

今、私たちはその始まりの地点にいます。このタイミングで私たちヒューマンコミュニケーショングループの活動が、ヒューマンコミュニケーションの未来を切り開く一助となることを確信しています。そのためには、これまでに出会わなかった新たな課題に対して、私たちがともに議論を深め、新たな視点を得て、未来を提案していくことが必要です。

そのために、みなさまにさらにHCGをご活用頂きたいと考えています。各研究会や毎年12月に開催されるHCGシンポジウム（今年は金沢です）、またHCGのニューズレターへのご登録（電子情報通信学会の会員であれば無料です!）、そしてお近くにおられるHCGにご興味をもってください。そうな方々にお声がけ頂き、ご参加いただくことで、HCGはさらに魅力的な、さらに価値あるコミュニティになると考えます。

どうぞお願いいたします。

---

FIT2024(第22 回情報科学フォーラム) 開催のご案内  
〔企画幹事〕 堤 公孝 長崎大学

---

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）、情報・システムソサイエティと情報処理学会が共同して主催する、FIT2024（第23 回情報科学技術フォーラム）についてご案内いたします。

- ・会期：2024年9月4日（水）～6日（金）
- ・会場：広島工業大学 五日市キャンパス（ハイブリッド）

2002年から毎年開催されている本フォーラムは、IPSIJ 全国大会と ISS ソサイエティ大会の流れを汲むものです。従来の学会大会の形式にとらわれない試みを新たに導入しており、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などを実現しています。

FIT2024 は、ハイブリッド形式での開催を予定しています。リアルな発表形式の良さを取り入れつつ、オンラインでの地理的な制約の無い参加も可能となります。FIT2024では3日間に渡って、船井業績賞受賞記念講演、特別講演といった数多くの企画イベント、研究者らによる研究発表、トップコンファレンスセッションといった多彩なセッションが繰り広げられます。特に、FIT2019 より新設された

「トップコンファレンスセッション」は、各分野におけるトップレベルの国際会議・学術雑誌にここ数年以内に採録された論文について、著者ご自身からご紹介頂くものです。FIT2024では、計89本の研究を関連分野ごとに15個のセッションでご講演頂きます。他にも、以下の企画をはじめとする情報科学技術に関する様々なテーマの発表会や、研究会企画によるイベントが開催されます。是非ご参加下さい。

・FIT2024 船井業績賞受賞記念講演（9月5日（木）14:00~15:15 第1イベント会場）

「Responsible Adaptation of Large Generative AI Models for Domain Specific Learning」

Ling Liu 氏（Professor, School of Computer Science, Georgia Institute of Technology）

・大規模言語モデルに関する特別講演（9月5日（木）15:30-17:00 第1イベント会場）

「特別講演 生成AIの進化と今後の展望」

岡野原 大輔 氏（株式会社Preferred Networks共同創業者, 代表取締役最高研究責任者）

・臨時シャトルバスの運行

JR五日市駅と広島工業大学FIT会場を結ぶ臨時シャトルバスを手配予定。

詳細はウェブに掲載予定

<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2024/access.html>

・懇親会

開催日時：2024年9月5日（木）18:00~20:00

開催会場：広島工業大学 五日市キャンパス Nexus21 2階

LEAF GARDEN（リーフガーデン）

一般（正会員・非会員）：5,500円、学生：2,200円、

割引（座長、イベント企画登壇者、トップコンファレンスセッション講演者）：3,300円

・託児補助、サービス

FIT開催期間中、参加者向けに就学前までのお子様の託児料金の補助を行います。お子様1名につき託児料の5割を補助、上限5,000円/1日まで。申込数が想定を超えた場合は補助額を調整。お子様連れの方にどなたでも利用いただける休憩室を会場内に準備します。

最新情報につきましては以下をご覧ください。

・FIT2024 公式ページ：

<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2024/index.html>

・FIT2024 プログラム：

<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2024/program.html>

---

HCG シンポジウム2024 への投稿のご案内

〔企画幹事〕 赤坂 文弥（産総研）

---

HCGシンポジウムは今年度で 22 回目を迎えます。

HCGシンポジウムは、工学分野だけでなく、ヒューマンコミュニケーションに関係が深い、心理学・認知科学、社会科学、生理学、デザイン学など幅広い分野の研究者が参加しやすい、活発な議論の場です。COVID 19 の影響もありましたが、2 年前より、対面での議論も復活しています。卒業研究を一足早く議論する場としても最適です。投稿・参加を是非ご検討ください。

今後、特集テーマセッションおよび特別セッションの企画を募集します。併せて是非ご検討ください。

#### 【開催案内】

場所：石川県金沢市

会期：2024年12月11日（水）？2023年12月13日（金）

発表申込開始：8月上旬 予定

発表申込締切：10月中旬 予定

発表原稿締切：10月下旬 予定

予稿集公知：12月上旬 予定

※最新情報につきましては以下をご覧ください

・HCG シンポジウム 2024 公式ページ

<https://www.hcg-ieice.org/hcg-symposium/2024/>

---

#### 研究会活動紹介 (HCS)

委員長 林勇吾（立命館大学）

---

ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会は、人間のコミュニケーションの特性を理解し、それを支援するための通信技術にかかわる基礎的な研究を発表する場の提供を目的とした研究会です。本研究会では、情報科学、心理学、社会学等人間のコミュニケーションにまつわる学際的な研究発表の場としております。

研究のトピックスとしては、対面や遠隔地のコミュニケーション、コミュニケーションにおける感情や社会的特性、webやSNS によるコミュニケーション、コンピュータを介したコミュニケーションの支援・操作、エージェントやロボット、子ども・高齢者・非母語話者を対象とした研究、コミュニケーションの空間や身体性等々、最近発表された研究だけを見ても実に様々です。コミュニケーションの分析やモデル化の研究もあれば、ユーザインタフェースを提案・開発する研究もあります。

本研究では、合同研究会(年に4回)を実施することで、分野を超えた多様な視点から議論を行っております。例えば、5月ではヒューマン情報処理(HIP)研究会とヒューマンインタフェース (HI) 学会コミュニケーション支援専門研究委員会と合同で開催を沖縄県の沖縄産業センターで毎年開催しております。そして、8月に

は、ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会(VNV)研究会と11月には、クラウドネットワークロボット研究会(CNR)研究会、1月には、ヒューマン情報処理(HIP)研究会との合同の研究会を開催予定です。

研究会では、子連れ参加を推奨する取り組みや学生さんの発表を歓迎しております。研究コミュニティで新しい研究テーマを育てる場でありたいと考えており、研究のアイデア段階であっても、研究の途中であっても、そのプロセスを発表していただくことをエンカレッジしております。そして、本研究会ではHCGによるHC賞以外にHCS研究会で発表された優れた研究報告(研究会発表10~20件につき1件程度)にHCS研究会賞を設けております。

今後もHCS研究会では、コミュニケーションに科学的な研究に興味を持つ研究者の輪を広げゆく活動を展開し、様々な分野の研究者の交流・議論の場を提供していきたいと考えています。

---

#### 研究会活動紹介 (VNV)

委員長 菊地浩平(筑波技術大学)

---

ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション(VNV)研究会は、2005年10月に電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)内に設立された研究会/運営委員会で、HCGの中で長く続く研究会になっています。

VNVでは、設立当初から「言語情報と非言語情報の効果的な統合に基づく、人間=コンピュータ間コミュニケーションの円滑化技術の開発、およびコミュニケーション・モデルの構築」を目標に掲げ、議論を積み重ねてきました。

VNVが開催する研究会・大会は年間4~5回程度の定例研究会、および年1回の年次大会の2種類があります。

定例会では毎回1-2名の話題提供者をお招きします。

定例会では発表途中でも疑問があれば議論が始まるのが通例となっており、初めて参加される方は面食らうかもしれません。

しかし、これは一方的な情報提供と享受という関係に陥ることを徹底して避け、参加者同士の自由闊達な議論を第一とするVNVらしさの象徴でもあると考えています。

年次大会では、設定するテーマに沿った数件の話題提供や外部講師による招待講演、パネルディスカッションなどを柔軟に構成し開催しています。

直近の年次大会では名古屋工業大学の李晃伸先生をお招きし、「リアリティを体現するアバターコミュニケーション研究」と題してご講演をいただきました。

またHCS(ヒューマンコミュニケーション基礎)や日本音響学会音声研究会との共催を企画するなど、分野間・研究会間での交流を促進する試みを続けているところです。

VNVは2025年に設立20周年という大きな節目を迎えます。

これを記念する企画のみならず、定例の活発な議論の場を維持し、みなさまに関心を寄せていただけるよう励んでいきたいと考えております。  
どうぞVNV研究会に足をお運びください。ご参加を心よりお待ちしております。

VNVのホームページのURLは  
<https://www.ieice.org/~vnv/>

---

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、  
詳しくはHCG ホームページ<http://www.hcg-ieice.org/>をご覧ください。

---

□■□  
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ  
Copyright (c) 2023 IEICE, All Rights Reserved.  
□■□

---

-----  
このメールアドレスは送信専用となっております。  
返信は受付できませんので、ご了承ください。  
電子メールによる情報配信を必要としない方は、  
マイページにアクセスし、左メニューにある各種申請の  
「メールアドレス/メール配信変更」から配信停止の  
手続きをお願い致します。  
ただし、すべての情報配信を希望されない場合でも、  
選挙や会費のお知らせ等の学会からの重要なお知らせ  
については配信されますので、ご了承ください。  
マイページ : <https://cmweb3.ieice.org/Kjn/JP/>  
-----